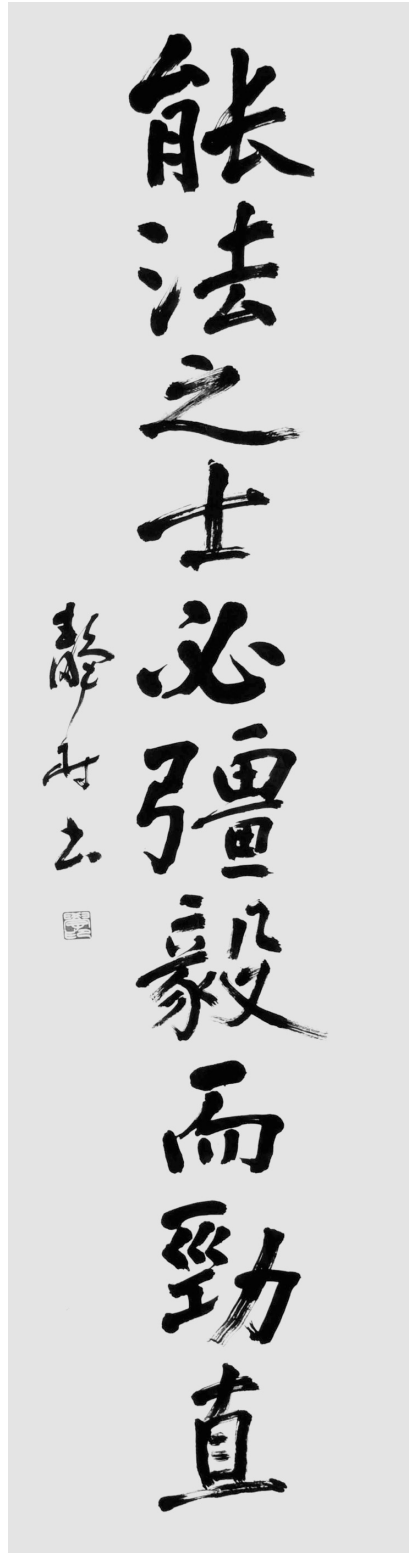


A

鈴木静村書

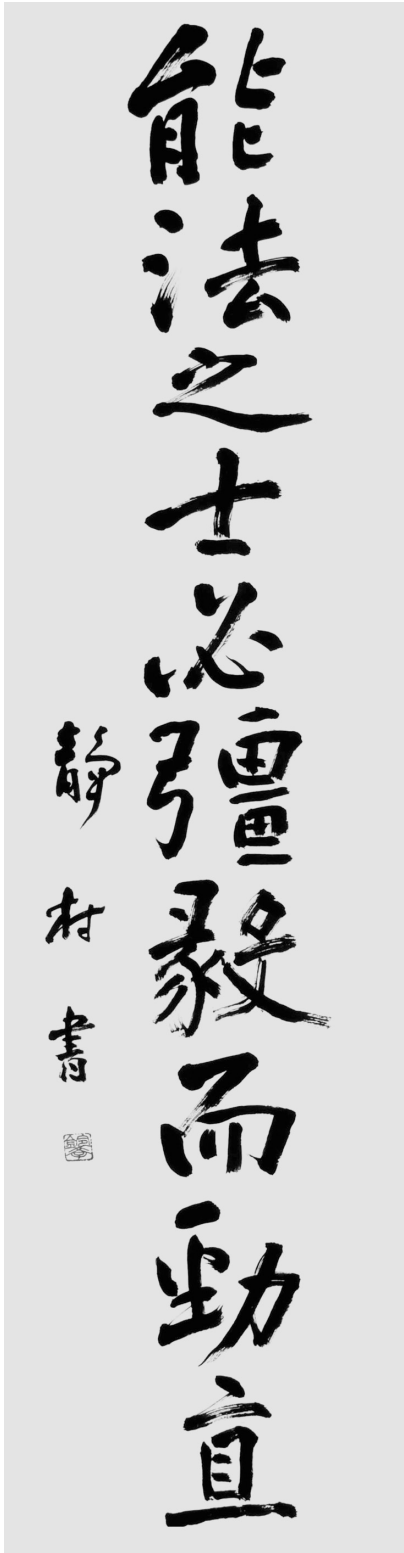
能法之士必彊毅而勁直（韓非子）  
能法之士必ず彊毅而うして勁直。



B

概観

一行書き10文字楷書課題。筆、A山馬3号。B兼毫3号。墨継ぎは作品感を出すために、「必・而」これは私の好み、これに拘わることなし。落款、本文が楷書表現の場合、「楷プラス楷」を避け行書体が一般的。なお、一行書の場合、落款を意識し本文をやや右に寄せる手法を見受けるが、私は真ん中で通している。



主な文字について

能 A異体字、B旁少々変化を。法之士 殆ど同形同意。必 筆順、A中二画から三点（上―左―右）B上点から斜画へ。彊 旁単調にならぬよう。毅 B異体字。而 B纂誌銘の楷書。勁 A書きにくい形、小生苦手。B古典に多い。直 この形が多い。書では末画は殆ど“一”。

訳：よく法を守り行なう人は、必ずその性質は強さもあり、まっすぐである。

予告（十二月二十二日締切）

晚徑黃花開有色

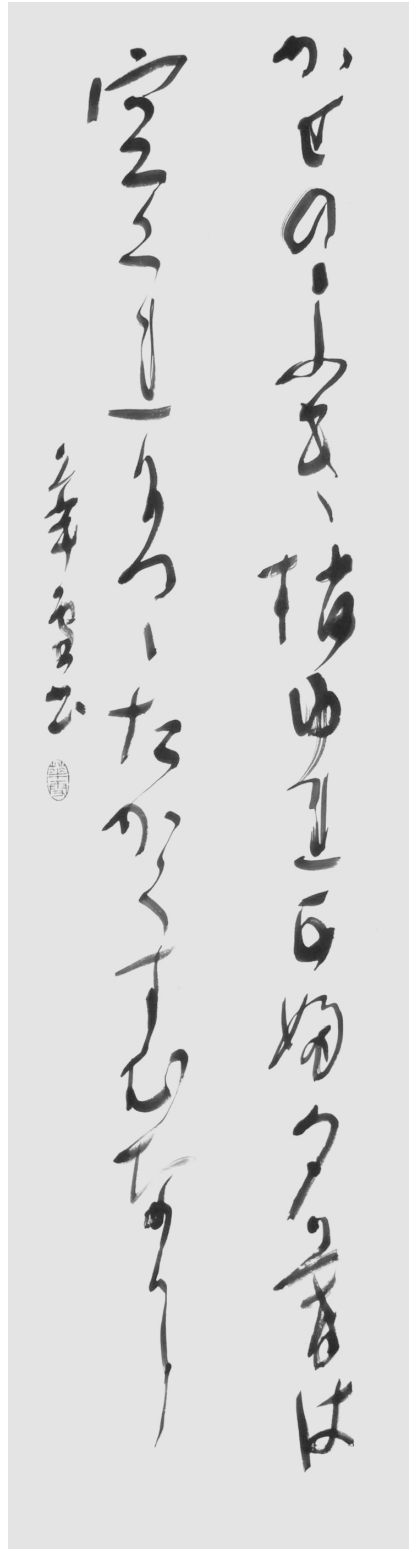
曉程殘月落無聲（查爲仁）

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

A

平岡華雪先生書

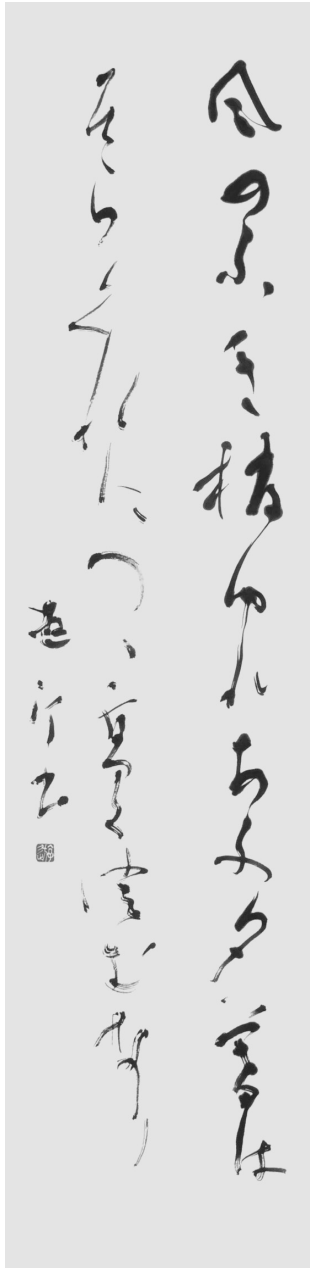
風の吹き梢ゆれあふ夕暮は空くれにつつ高く澄むなり(岡麓)  
かせのふき梢ゆれ連あ婦夕暮は空久連尔つ、たかくすむなり



B

立川遊汀先生書

風のふき梢ゆれあふ夕暮はそら久れにつ、高く澄むなり



学 び 方

条幅半切、構成の第一歩は、全体像が胴張りになるようにします。唐招提寺金堂の胴張りの柱を思い浮べてみてください。(柱に施された、ゆるやかなふくらみ) 使用用具

- ・筆、羊毛長鋒5号
- ・用紙、線質に深み、潤濁の変化を出すため多少滲みが出る紙を選びました。
- ・前回同様、現代短歌ですから、ほぼ原文どおり自然体で表出、文字の大小、字間の伸縮で全体の変化を出しました。また、終句で筆先の表裏をリズムカルに遣い作品を締めてみました。

予告

(十二月二十二日締切)

かさゝぎのわたせる橋におく霜の白きを見れば夜ぞふけにける(新古今和歌集)

岡麓(1877~1951) 正岡子規門下として学び、「万葉集」に本質を置いた短歌に、子規直伝の写生を理論的に吹き込んだ麓の歌は、都会的に洗練された典雅な歌と評され、島木赤彦、斎藤茂吉、中村憲吉らと長くアララギ派の中心を担ってきた。歌を詠み、書を教えて生涯を終える。

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

荒城の人路無し(劉復)

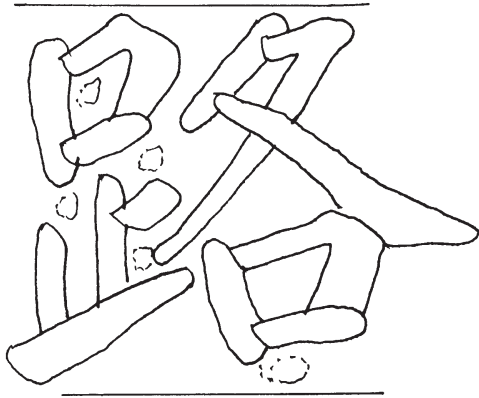
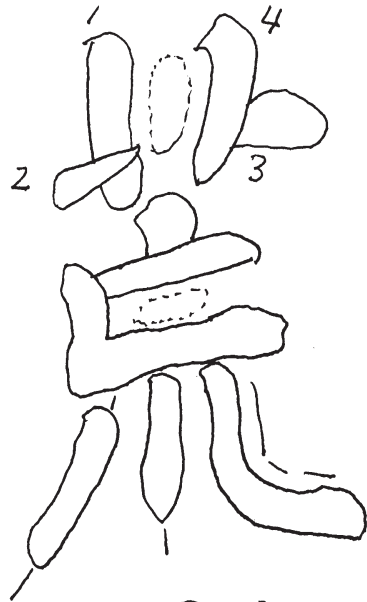
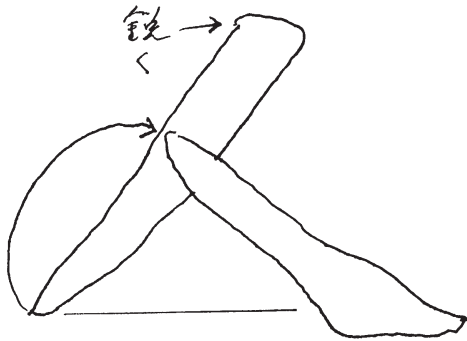


訳：荒れ果てた城に人がいた気配は何もない。

▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

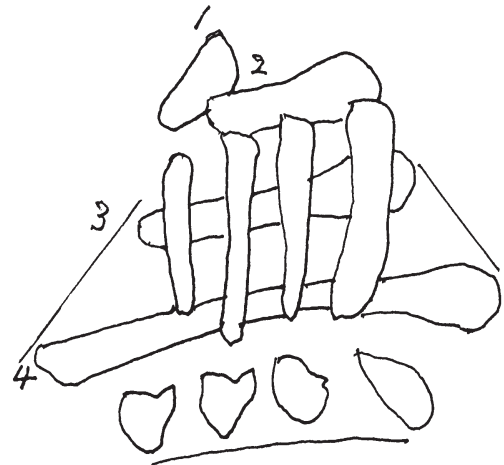
- ①漢字部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



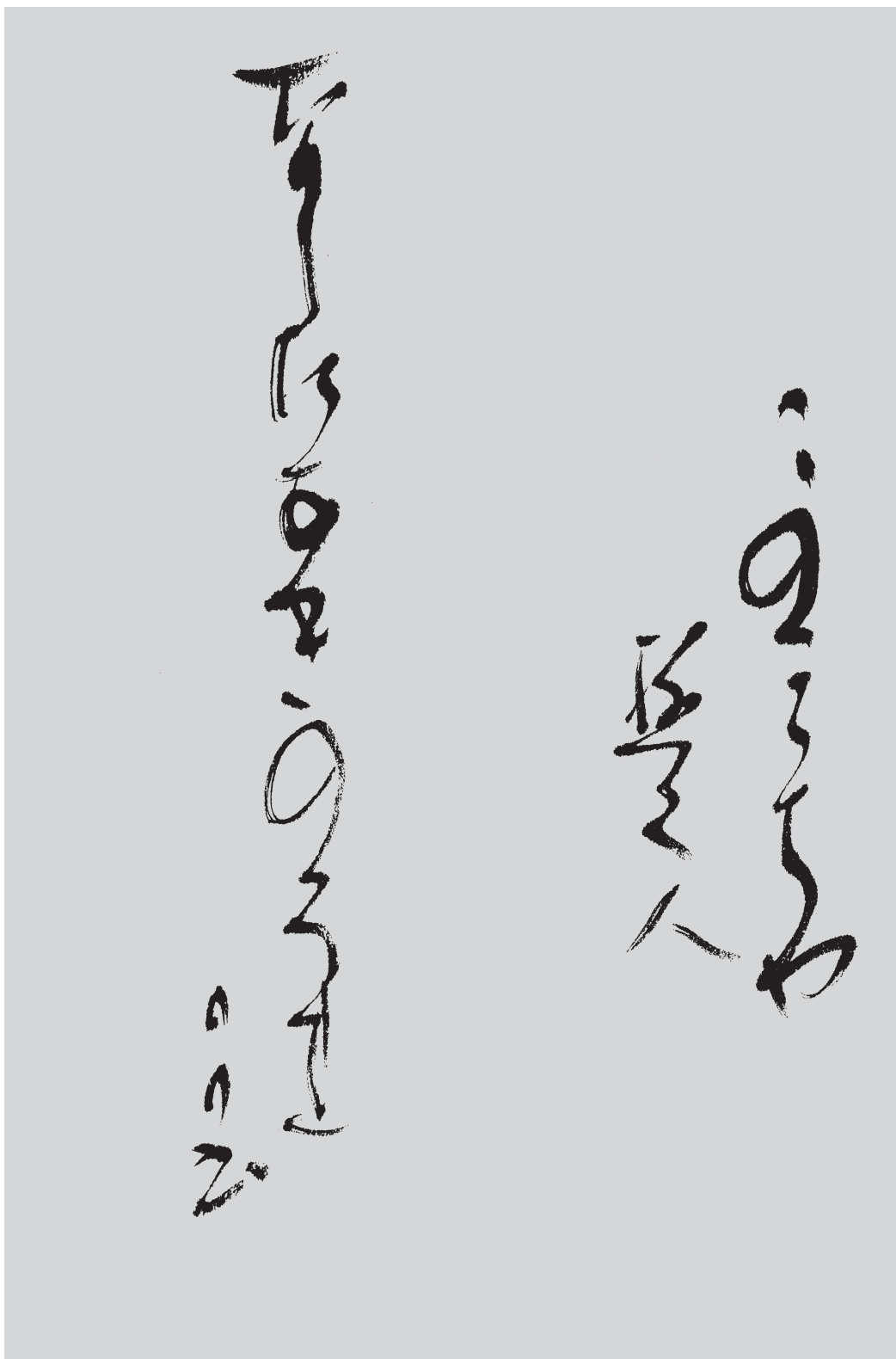
参考点として

荒、下部「儿」(ニエン)で安定感  
 城、斜画(戈法)がポイント  
 無、三本目の横画長く(この字の  
 主画、四本目、気持ちのつらかりと  
 人、一画目の鋭い入筆、見たことなし  
 路、偏と点を巧く融合させる



平岡華雪先生書

此道このみちや行人ゆくひとなしに秋あきの暮くれ(芭蕉)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

①漢字部

②支部名または都道府県名

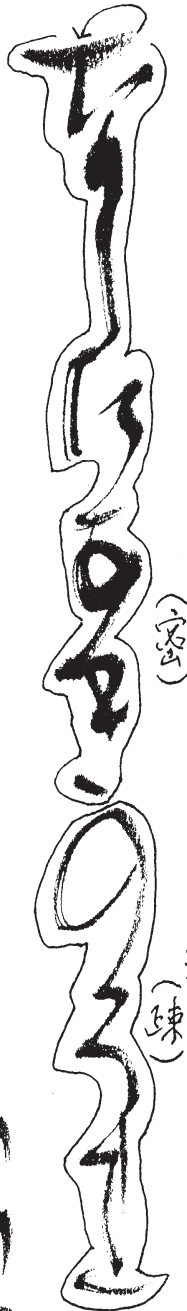
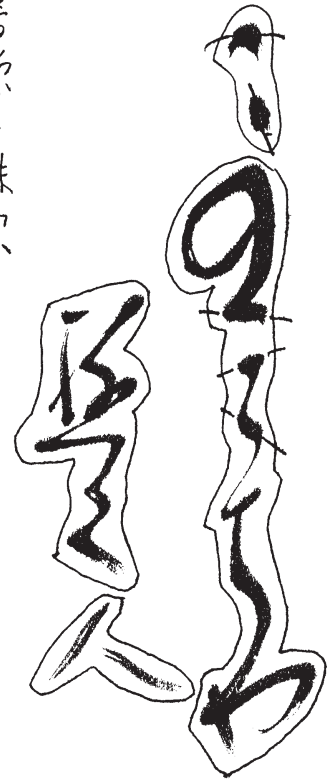
③氏名または雅号

④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

詩情を味かい、書線と味かい

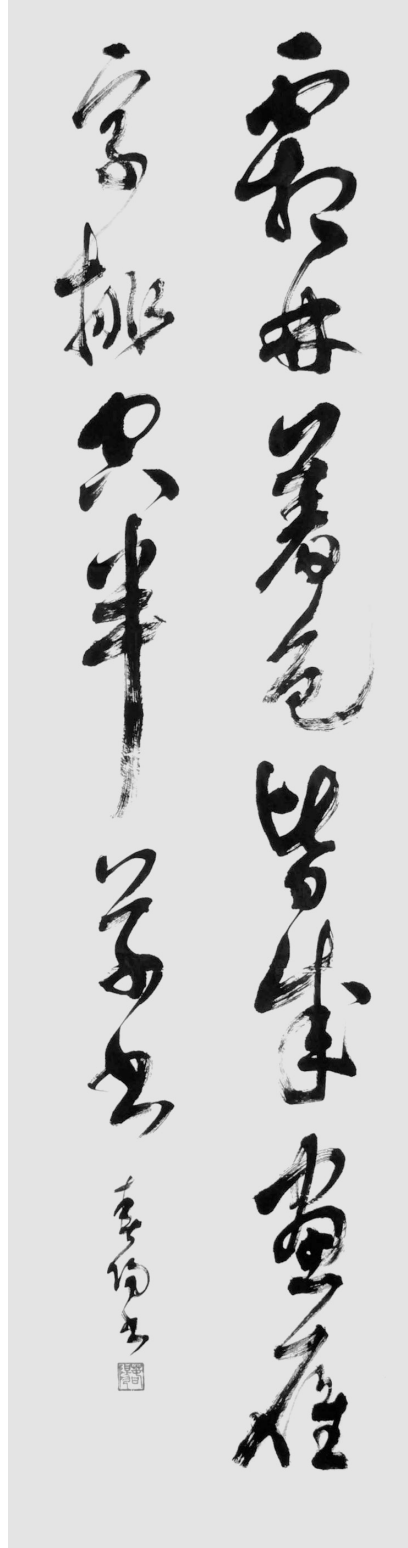
芭蕉の名句、口誦むほどに情趣の迫り。私はこの句調に如かえ、善雪先生のこの表現に惹かれこきた。まず「こ」「三」の律動的な動き、



特に「こ」入筆、鋭く下方から巻き込む。初筆の弾き、の緩やかな曲線から円弧。「三」一筆目に長く連綿。ヤ、問、ニ、三筆軽妙。「ち」腰を細長くし、「や」に長く入る。この三連綿線の相違に注目。二行目、「人」サフリと軽く。三行目、「な」に「基本」の連綿。一般的には「あ」墨継が「い」の久連「疎」の連綿、効果的に。

星野 春陽 先生 書

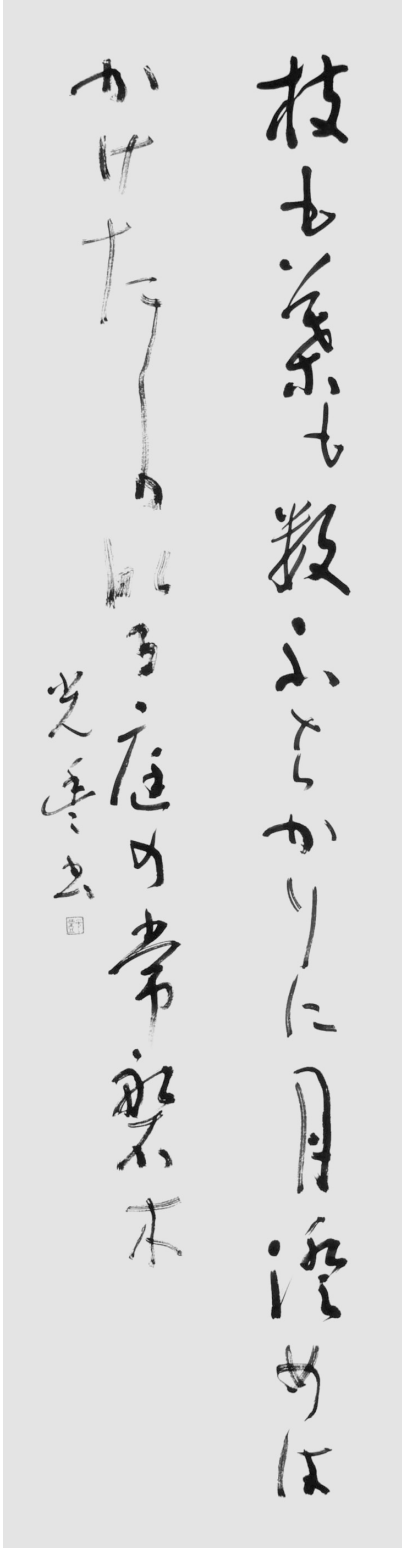
霜林着色皆成畫 雁字排空半草書 (唐伯虎)  
霜林色を著け皆画を成し、雁字空に排し半ば草書。



訳：霜の降りた林はすべて紅葉して絵のようなけしきになり、雁の列は大空に連なって草書に似ている。字と書に工夫が見える。

絹村 光豊 先生 書

枝も葉も数ふばかりに月澄めば影たしかなる庭の常磐木 (木下長嘯子)  
枝も葉も数ふ者かりに月澄めはかけたし可那る庭の常磐木



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

外川霞夕先生担当

九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢



成之宮、此則隨之仁壽宮也、冠山抗  
九成宮、此れ則ち隨の仁壽宮なり、山に冠して殿を抗くし（殿）

概観

欧陽詢 永定元年（五五七）潭州臨湘の生まれ。逆境の中で成人し、生まれつき容貌風姿がすぐれなかったが、嘲笑に堪え、学問芸術に励んだと言われている。彼の逸話として、ある時索靖（二三九—三〇三）西晋の書家の碑を見て、その書の絶妙さに感嘆し三晩その前で過したという。書に対する研究心旺盛な話が伝えられている。書の源流は鍾繇から発し、王羲之を経て

晋代の書法を守り継承する中で出来上が

たとされている。欧陽詢の楷書は特に胴が引きしまっているところから背勢の代表的な書、均整で謹厳、縦長の字形が特徴的、合理的な厳しさを感じる独自の書法で「欧法」と称されている。

背勢は、相対する二本の縦画が互いに背き合うように書かれている。それに対して

向勢は、内側に向き合うように書かれている。



各字のポイント

(1)成 上を高くおし出して右下に反り気味に、終筆は右外に抜き出すように。

(2)之 点画は気脈をつなげる。払い、筆先を軽く突くように入筆し、左上からしだいに太く右斜め上に抜き稜角をつくる。

(3)宮 点はやや太く抜きは細く。二つの口の間、左離しているのが多い。

(4)也 終筆の右ハネは左から勢いを生かしながら斜め上に向けて抜く。隸書の筆法。

<注>則 囲まれた小横画は縦画に触れぬように離れている。狭くするしさを感じさせないため。

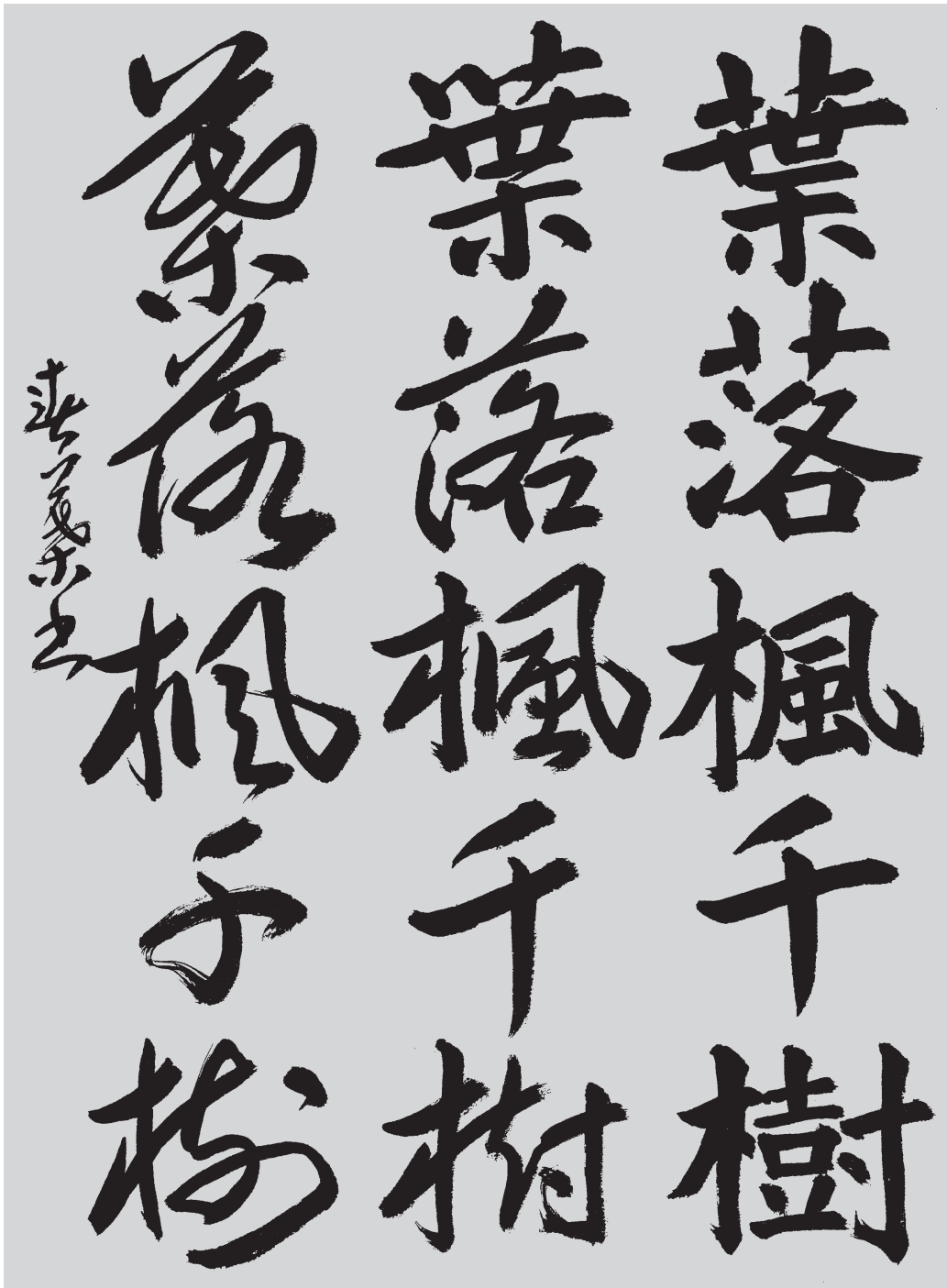
※条幅臨書部は出品料無料です。是非チャレンジを！

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。



小林 春葉 先生 書

葉落楓千樹（陳允平）  
葉は落つ楓千樹。

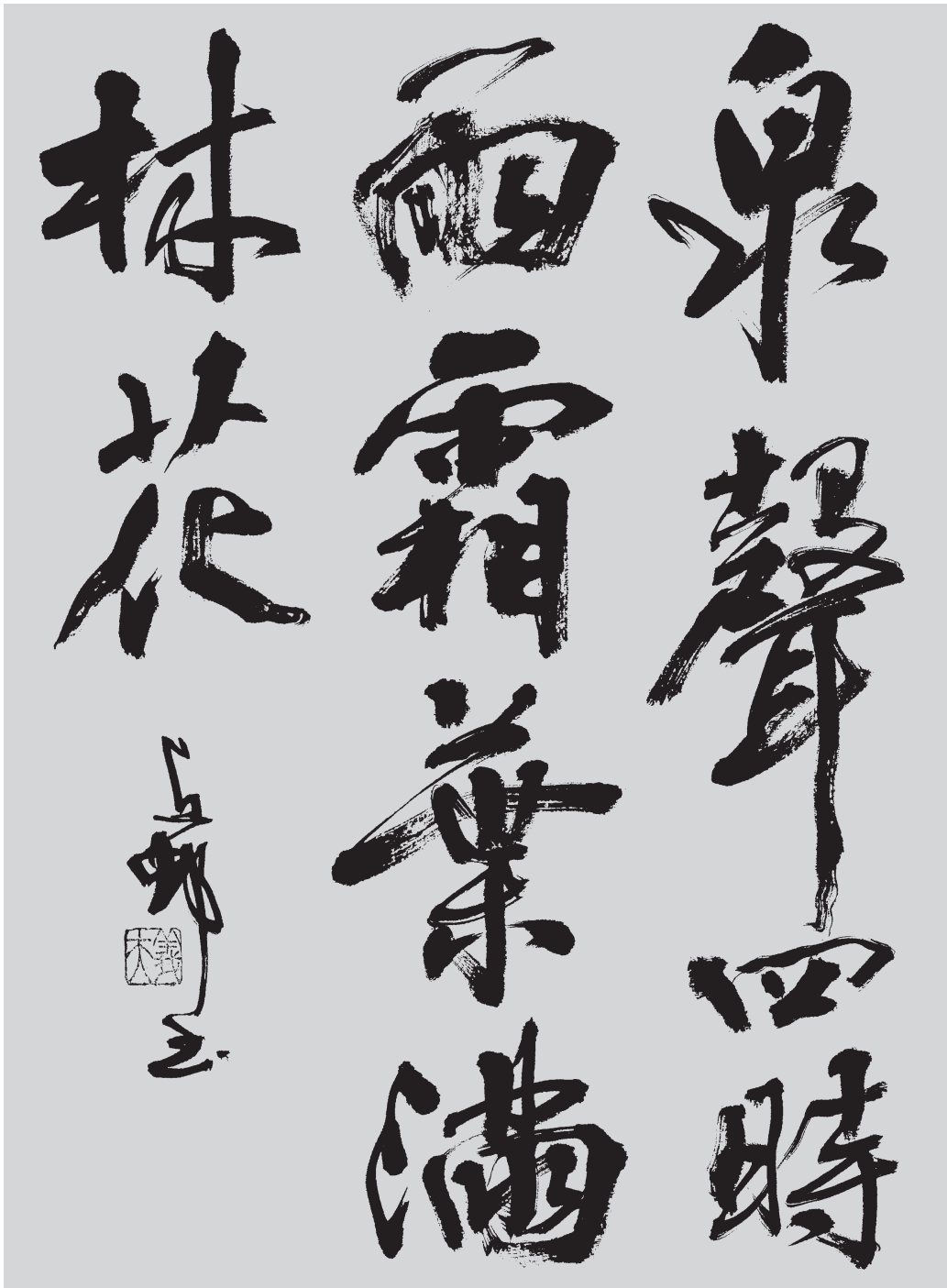


訳：秋がおいくにふけて多くの楓も紅葉をおとってしまう。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

戸張丘邨先生書

泉聲四時雨 霜葉滿林花（棲雲章）  
泉聲四時の雨、霜葉滿林の花。

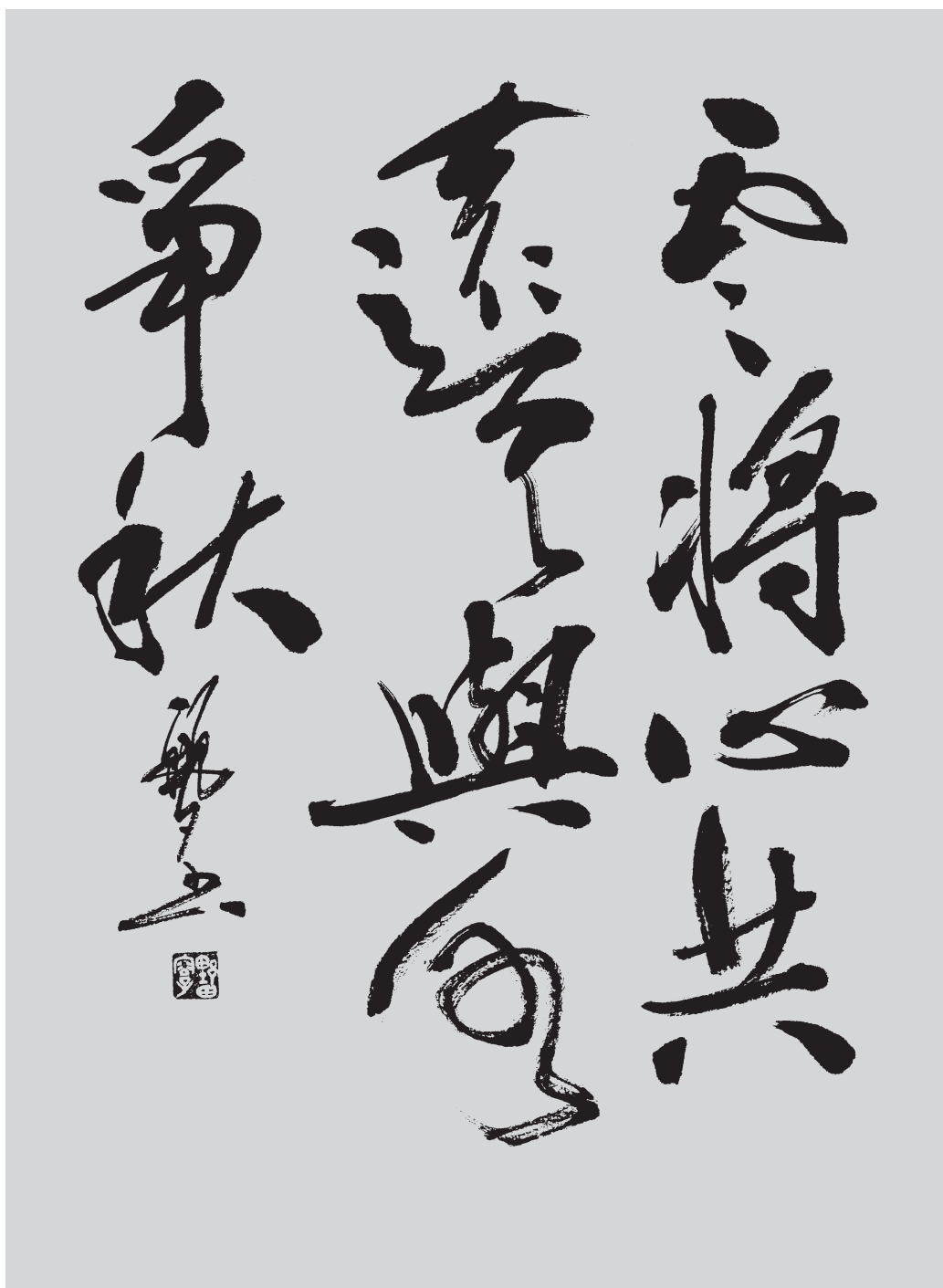


訳：常にさらさらと鳴る泉声は四時降りつづく雨かとも疑われ、霜に染んだ紅葉は林一面の花とも見られる。

◆随意部参考として出品してください。

野田麗夕先生書

雲將心共遠 天與水爭秋（張慎言）  
雲は心を將て共に遠く天は水と秋を争う。

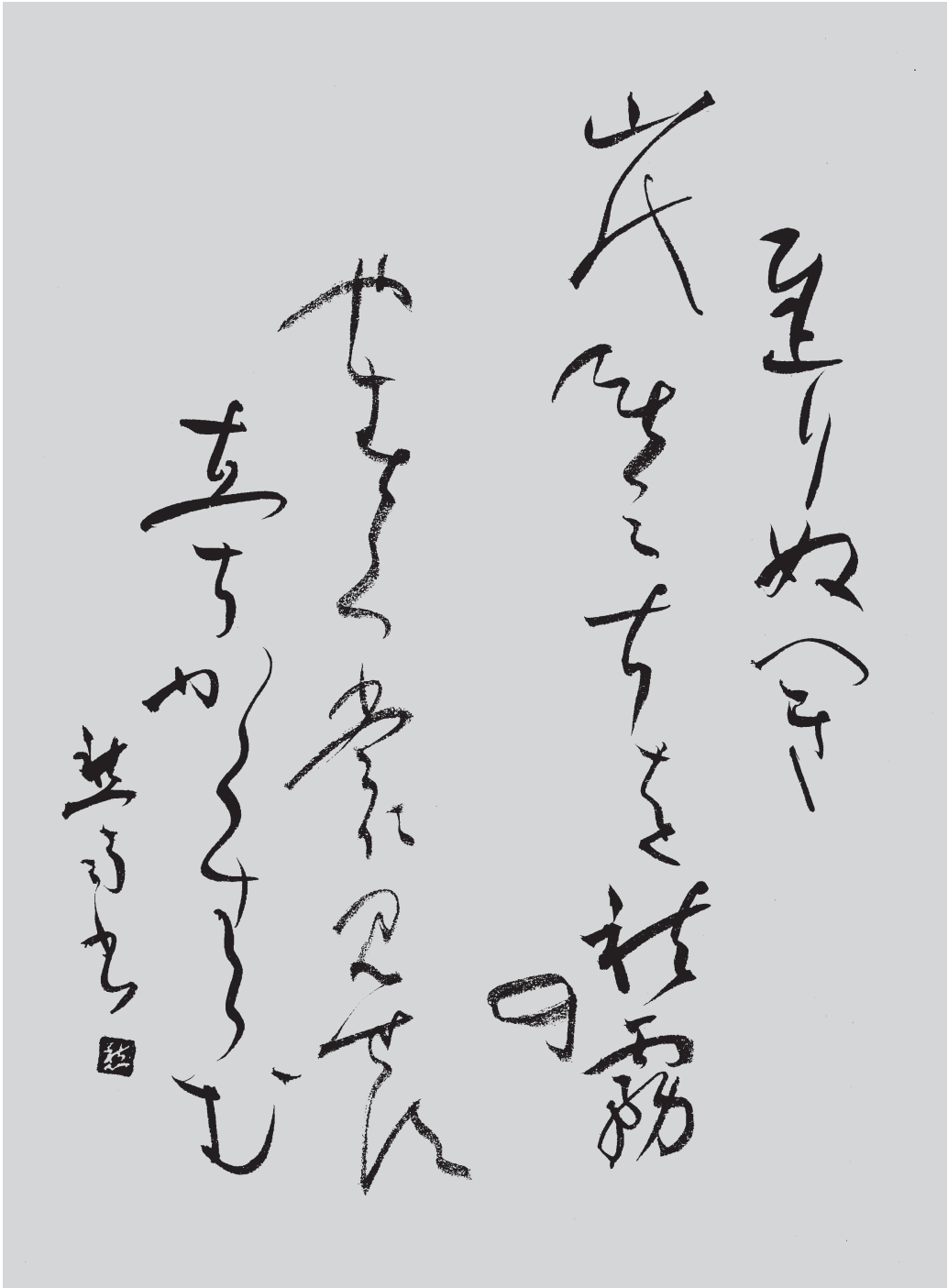


訳：雲は我が心と共に遠くなる感じがする、天は水と同じく清く秋を争いおうている。

添削又は手本希望者は本会規定により、野田麗夕先生（〒410-0045 沼津市泉町16-38）に直接お申し込みください。

加藤愁雨先生書

遅<sup>ち</sup>りぬへき山<sup>やま</sup>能<sup>の</sup>毛<sup>も</sup>三<sup>み</sup>ちを秋<sup>あき</sup>霧<sup>きり</sup>のやすくも見<sup>み</sup>せず立<sup>た</sup>ちかくすらむ  
（拾遺和歌集 紀貫之）



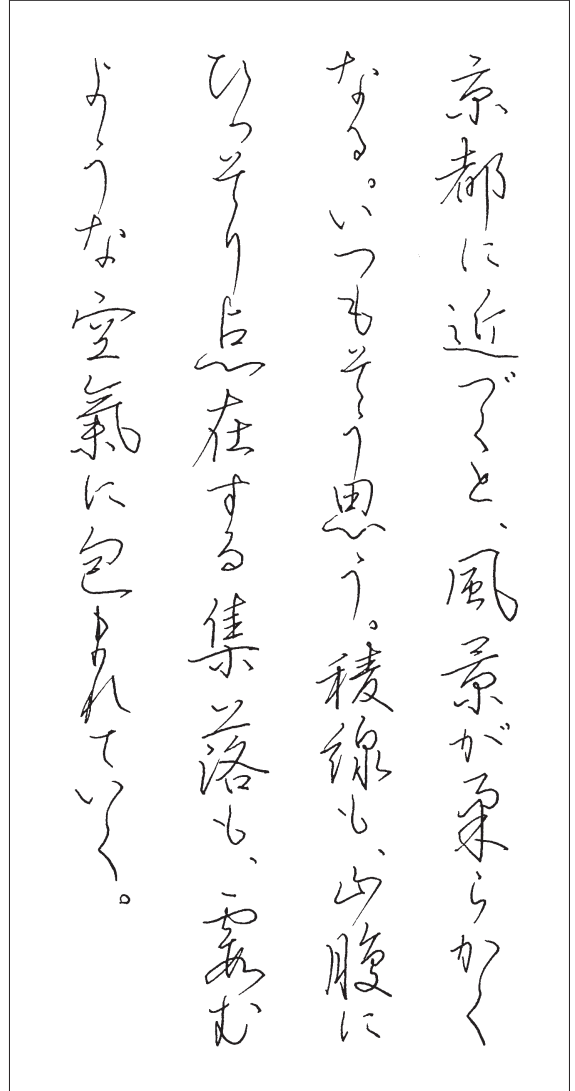
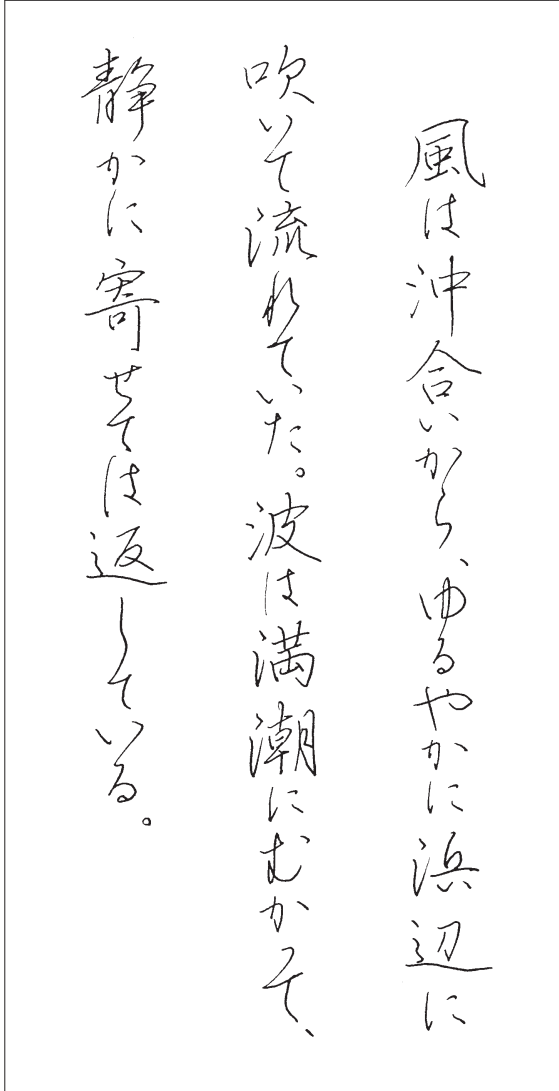
添削又は手本希望者は本会規定により、加藤愁雨先生（〒228-0818 相模原市上鶴間本町2-17-16-419）に直接お申し込みください。

路川千嘩先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

正教授 創作部門(自運作品、自由形式) 出品。詳細は39ページ参照



課題 1 (初段階以上)

京都に近づく、風景が柔らくなる。いつもそう思う。稜線も、山腹にひっそり点在する集落も、霞むような空気に包まれていく。

「京都の恋」鎌田敏夫

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 受験料は九〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題 1 六〇〇円
- (6) 課題 2 三〇〇円

課題 1 六〇〇円

課題 1 路川千嘩先生  
課題 2 〒二〇七-〇〇一三

東大和市向原

五ノ一〇九一ノ四

課題 2 (初段階以下)

風は沖合いから、ゆるやかに浜辺に吹いて流れてきた。波は満潮にむかって、静かに寄せては返している。

「白秋」伊集院 静